

同窓会

会報

第33号

2025.8



栃木県シルバー大学校中央校同窓会

令和六年度中央校同窓会の活動について



栃木県シルバー大学校中央校 同窓会会長 吉田 弘

日頃より、同窓会活動に対してご理解とご協力が賜り、お礼申し上げます。私たちは、生き

が推進員に委嘱されています。地域活動やボランティア活動に積極的に参加するために必要なことをシルバー大学校で学びました。同窓会活動は、その精神で成り立っています。同窓会の皆さんはご多忙の中、地域において活動されていることと思います。

令和六年度の同窓会活動は、会員相互の交流と親睦を深め、生きがい推進員として地域社会活動を支援する事などを目的に、次の事業を計画し活動しています。

また、同窓会として募金活動、フードバンク支援等のボランティア活動の実施。本部、支部、期別会等の活動状況や栃木県シルバー大学校中央校の情報を会誌として発行します。

まず、支部活動の活性化や支部間の交流を促進し、支部活動を支援するため次の交流事業を行います。レクリエーション指導者養成のための研修会としてウォークラリー研修、スポーツ交流としてグラウンドゴルフ大会、演芸関係クラブOBによる演芸会、支部活動報告や各支部

の課題解決を図るため、支部長意見交換会を行います。

最近では支部役員のみならず、活動に参加する人がいない等、支部活動に課題が出てきています。皆様には健康にご留意され、引き続きクラブやボランティア活動等、同窓会活動にご協力をお願い申し上げます。

目次

あいさつ	1
同窓会の活動	3
現役生（四十四期）の活動	4
支部だより	4
期別活動	14
OBクラブ活動紹介	15
同窓会役員名簿	20
編集後記	21

「点」から、そして「面」へ



社会福祉法人とちぎ健康福祉協会

理事長 小川 俊彦

シルバー大学校中央校同窓会会員の皆様には、日頃からの熱心な活動に敬意を表しますとともに、本校へのご理解、ご支援に、深く感謝申し上げます。

今年三月に県が策定した「とちぎ健康21プラン」では、県民の健康づくりのため、個人の行動に加え、社会とのつながりや自然に健康づくりに取り組める環境づくりにも重点を置いています。生きがいづくりも同様です。

皆様は、生きがいや仲間を求めてシルバー大学校に入学し、多くの仲間と出会い、自治会やクラブ活動を通じて色々なつながりを深め、様々な活動に取り組んで来られました。

そして卒業後は、各地域で先輩や後輩と同窓会として結びつきを継続し、さらに地域への貢献へと活動を広げています。

こうした流れは、あたかも「点」が「線」になり、多彩な「図形」を作り、様々な場所で「面」を形成しているように見えます。

会員の皆様が地域の中で「面」としていきいきと活動している姿は、県民が健康や生きがいづくりに自然と取り組む社会環境づくりに貢献しているものと言えます。

会員の皆様には、ご自身と県民の皆様が住み慣れた地域でいきいきと暮らすことができるよう、心身ともに健康で御活躍を続けられますことを御祈念申し上げます。

人と人との繋がりで活力ある支部活動を！



栃木県シルバー大学校中央校

教務部長 山田 雅彦

中央校同窓会会員の皆様には、日頃から活力ある地域づくりに御尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、同窓会活動は、役員が変わってもずっと受け継がれている人と人との繋がりが入った宝箱です。第一期生から現在までの四十五年間、その宝箱が大切に受け継がれています。

現在までの卒業生は一人を超え、令和十一年十月には、創立五十年を迎えます。

皆様には、この中央校を卒業した人と人との繋がりである同窓会支部活動（親しみやすいように「中央校コネクト」と言う）の宝箱を大切に引き継いでもらいたいと考えています。

三校合同授業で講義をしている青木羊耳先生は、高齢者の新しい生き方は、痛む・痺れる身体を抱え、動きは鈍く機敏さには欠けても、精一杯頑張つて、心は若く、交友は足繁く、後進の面倒見は良く、大人の味で「ほろ苦く」生きることだと著書の中で述べています。支部活動にもその考え方が必要かなと思っています。

今後とも、皆様には、地域のボランティア活動や中央校コネクト（同窓会支部活動）など様々な場面で交流を深めていただき、健康で生きがいのある地域づくりに貢献されますようお願いいたします。

日々、その活動を継続することが、スマートフレイル（老いを賢く生きること）の近道だと思います。本校で学んだ知識や経験を、是非活かしてください。

最後に、会員皆様の御健勝と御活躍を心からお祈り申し上げます。

佐々木さん 山田さん 堀江さん



高山さん 前原さん

教務局の体制

今年度の中央校事務局（教務）の体制は、左記のとおりです。

なお、佐々木小夜教務は、二月中旬から出産休暇・育児休業中のため、その後任に小林道子教務が着任しましたので、お知らせします。

同窓会の皆様も、是非、事務局へ足を運んでください。

シルバー大学校校長 福田 富一 知事

副校長 小川 俊彦 理事長

教務部長 山田 雅彦 支所長

教務 堀江 誠

教務 高山 典子

教務 前原 好美

教務 佐々木小夜

同窓会の活動

ウォークラリー研修会について

中央同窓会副会長 岡 室 富 男

生きがい推進委員として地域社会に貢献することを目的に、中央同窓会として支部活動の支援を行ってきた。コロナ以降、昨年度も「ニュースポーツ研修会」を継続して行ってきたが、各支部のアンケート調査から今期は「ウォークラリー研修会」を実施した。初めての開催となったが参加支部十三支部、参加人数七十名（男子三十五名、女子三十五名）と多くの参加者を得られた。講師は、栃木県レクリエーション協会の相田先生に依頼し、中央校講堂をベースに健康の森の庭園を使用し、講



義と実習を行なった。午前は講義、午後は実習と何度も庭園内を作成したコマ図をチームごとに見ながら「どこだどこだ」と歩き周り、体力の消耗と頭の体操になったと思う。

終了後にアンケート調査を行ったが、概ね楽しかったが一日中の研修は長い、コマ図の作成が難しい、支部でやるには安全な場所がない等の意見があった。今後の同窓会の研修会の課題の参考になった。また、大きな事故もなく無事に終了できた。

ありがとうございました。



第二十五回支部交流グラウンドゴルフ大会

中央同窓会副会長 小 西 真

支部交流グラウンドゴルフ大会は五月八日宇都宮市屋板

運動場で開催されました。当日は天気にも恵まれ、グラウンドコンディションも上々の状態でプレーする事ができました。吉田会長の開会挨拶の後、十一支部八十八名の参加者は、四時間以上にわたりベテランや初心者の皆様と、和気あいあいと楽しく交流ができました。シルバー大学校に入学したお陰で、この方々にご縁と健康が頂けたと感じます。

- 優勝 宇都宮東第一支部
丸山 今朝則
- 準優勝 宇都宮南第一支部
鈴木 誠
- 三位 宇都宮南第一支部
淀野 正義



中央同窓会グラウンドゴルフ大会 (2025.08)

現役生(四十四期)の活動

現役(四十四期)生の活動状況

学生自治会長 對馬 仁



今年度の自治会活動は、総学生数四四二名で四十四期二一四名、四十五期二二八名です。

活動は、従来レベルの活動を目標に総会で承認を頂いた事業計画の実践に向け活動を進めております。

最大の行事である学校祭は、一人一役を前提に全員参加を掲げ七月二十五日、二十六日、三十日に開催します。クラブ、同好会では、四十五期生の多数の学生が入部され、各部活動に参加されています。作品展示会、ボランティア活動にも積極的に取り組んでおります。

各委員会活動も活発で、奉仕活動委員会ではフードバンク支援、各種募金活動、チャリティーバザー等を行いました。

研修旅行委員会は、四十四期生が宮城、福島方面へ、四十五期生は東関東方面へ計画実施して、新たに学生相互の親睦と見聞を深める事ができました。

会誌発行委員会は、かわら版、年輪の発行に向けて活動を進めております。

ホームページ運営委員会は、各活動内容や活動報告、動画の更新も予定しています。

学生や卒業生の方への情報発信も随時行っています。在校生もシルバー大学校の校風を継承して参りますので、引き続き卒業生の皆様のご協力、ご鞭撻をお願い申し上げます。

支部だより

支部活動について思うこと

宇都宮東第一支部庶務 江面 昌明



当支部は、現在七十八名の会員数で活動しており、活動は大きく二つに分かれます。

一つ目は、総会や役員会とボランティア・ポイント活動などの執行部が主体となつて進めていくもので、新年会やバーベキュー大会など、会員相互の親睦を図る行事

も企画し、実施しています。

二つ目は、昨年度から取り入れているのですが、九つある班の班長さんたちを、ボーリング大会・史跡巡り花見・親睦旅行のいずれかの委員会に所属してもらい、それぞれの委員会が中心となって、行事の計画立案から準備・活動実施までに関わっていくものになります。

どちらも支部を支える大切な活動になりますが、支部活動の目標は会員相互の親睦交流と地域への社会福祉向上に寄与することだと思えます。

コロナ禍以降、会員数も減少傾向にあり、支部活動継続も難しい局面にさし掛かっているかとは思いますが、従来行ってきた行事やボランティア活動ができるようになってきているので、これからの支部活動に多くの参加者を期待し、取り組んでいきたいと思えます。

宇都宮東第二支部活動について

宇都宮東第二支部長 野澤敏男

四月で、僕は役員四年目を迎えます。支部長、福祉部、まちづくり応援部を担当します。

既にチャレンジが始まっています。この一年を振り返ると、いくつもの行事が楽しくできたことです。親睦行事五つと福祉部主催演芸発表会一つ、計六つの行事です。参加した方々に楽しんで貰えたと思えます。

課題は、親睦行事の参加者が毎回二十名前後で推移しています。この傾向は、数年変わらず残念に思えます。一方、演芸発表会は、八十名を超える参加があります。人気はアフリカダンスです。ダンスの輪に入り、クラブ員の演技を見ながら皆が一緒に踊ります。楽しいですね。いよいよ、奉仕活動です。演芸クラブの歌コーラス活動が凄いです。年間累計三十六回出前演芸を実施しています。素晴らしい。他に、支部居住区を十区分し清掃



をしています。参加は、四割位で推移。更に八月宇都宮花火大会後の清掃イベントがあります。この参加者は二十名程度です。日中暑い時間帯、若いボランティアが頑張っています。その一部に混じり活動します。しかし、作業を続け大丈夫かやや不安も。今年は夏の奉仕活動について、役員会で相談し体力に見合う活動にしたいと考えます。

最後に我々の時間は足早に過ぎます。何とか取り残されないよう努め、笑顔で活動できれば良いと思えます。

宇都宮西第一支部活動報告

宇都宮西第一支部長 座間宏一

今年度は、新たに六名の新規会員(四十三期生)を迎える事が出来ました。総会員数は八十二名となり新規会員を含め、会員相互の交流や連携、ボランティア活動、更に親睦を深めることを念頭に支部活動の充実に努めています。

西一支部の活動は例年と同様、広報・福祉・親睦の三つの委員会を中心に進めています。広報委員会の活動は支部便りの発行(二月発行済)やラインのグループ「西一支部みんなのライン広場」(現在五十八名が参加)を活用し、タイムリーな会員相互の情報共有を図っています。また、昨年度は活動実績の共有を目的に、写真を中心とした支部便り(秋号)の発行を行い、今年度も継続する予定です。

福祉委員会の活動は、十五年余り継続し県からの表彰実績のある中央公園の清掃活動を中心に進めています。またラインだけでなくスマホの操作等も視野に今年度は市からの出前講座の実施を計画しています。また、中央公園の清掃活動の運営課題である維持するための負担軽減へ向けた検討をしてゆきます。

親睦委員会は最近話題となっているLRTの車両基地見学会やLRTに乗車して宇都宮酒造の見学会を行いました。酒蔵見学では、試飲もたっぷり楽しむことが出来ました。

更に、今年度の新しい試みとして支部内の交流を深めることを目的に、支部内のサークル活動の充実を進めたいと思えます。その第一弾として、グラウンドゴルフ練習会の開催を計画してゆきます。

今年度は昨年度と同様に地域に根差した会員相互の交流や親睦を中心に支部活動を企画・実施してゆきます。

支部活動について

宇都宮西第二支部長 原田昌廣

今年度の支部活動は、「会員相互の親睦」と「今を楽しむ、日々目的をもって考動しよう」の二つを柱に進めている。

新年委員会は二十八名の参加を得て「新年のつどい」を開催。演奏や合唱、ジャンケン大会、ハワイアンダンスなどで笑顔あふれる時間を共有した。福祉委員会は「つつのみやファミリー駒生」「宮の里」へ慰問。オカリナ演奏や大型紙芝居、アフリカダンスで入居者に喜ばれた。スポーツ委員会は十八名参加のバーベキュー大会を開催



LRT車両基地見学



宇都宮酒造見学&試飲

兵どもが夢のあと…



し、再開催を望む声も多く寄せられた。中央同窓会主催の行事にも参加し、今後はボウリング大会や親睦旅行、大谷地区清掃などを予定している。愛好会では「ゴルフ会」「そば打ち会」「古賀志山山歩き会」が活動している。活動後は「かわら版」を発行し、会員同士のつながりを深めている。今後多く多くの会員が気軽に参加できる支部づくりを目指していく。



支部の活動状況

宇都宮南第一支部長 大出好美

当支部会員数は九十九名です。定例会（支部役員・交流会）を毎月実施しており、極力新会員に参加をお願いし、支部活動の把握と会員相互の面識と親睦を図るよう努めています。

会員相互の親睦活動として、グラウンドゴルフ定例会（月一回）、ボウリング定例会（隔月一回）・同大会、カラオケ（隔月一回）、日帰り旅行等を計画実施しています。更に今年の新年会（食事会）には二十二名が参加し、大いに盛り上がりました。

ボランティア活動として、老人ホームでの演芸活動、雀宮地域文化祭への作品展示、地域内三小学校への子供教室・学習等支援を学校からの要請に応じて実施しています。地域内四公共施設の緑化園芸活動では、大きな花が長く咲くようお願いを込めて花壇の土作り、除草に励んでいます。また二月には新会員が中心となり、「歌声広場スマイル」を開



新年会（食事会）於「一濱」 シルバー大学宇都宮南第1支部



花壇の土づくり作業

設。(ギター、オカリナ、ハーモニカ等の楽器と歌唱で構成)し、皆で楽しみながらボランティア活動に発展させたいと頑張っています。

今後とも全会員が仲良く、楽しく協力し合って地域に貢献できるよう努めていきたいと願っています。

支部活動について

宇都宮南第二支部長 神 永 哲

令和六年度当初の支部会員数は、実に十年振りに増加に転じ一〇二名に達し、暗くて長いトンネルの出口が見えてきたようです。

昨年度は、中央図書館での書籍整理、総合運動公園や西川田公園等での清掃、福祉介護施設への訪問等の活動を実施しました。これらの活動中で、長年に亘る公共公園での環境美化活動が高く評価され、栃木県から「緑と公園の愛護」感謝状を頂きました。

また、山梨方面への「信玄餅詰め放題、ワイナリー工場見学、サフランボ狩り」ツアーや「ボウリング大会」「第一回合同演芸会」等の親睦と交流活動も実施しました。特に合同演芸会では、第一回ということでの手探り状態



でしたが、当日は沢山の会員の皆様に参加を頂き、次回以降の開催に向けた期待を寄せていただきました。更に令和六年度から「女子会」が誕生し今後の活動が期待されます。

人生一〇〇年の時代を迎え高齢者が人口の三割を占める昨今、高齢者が心身ともに健康に暮らしてゆくためには、家に閉じこもらず色々な人達とのふれあいを通じて仲間づくりの輪を広げ、有意義な日常生活を楽しむことも大切なことだと思います。

当支部では、全ての会員の皆様が活き活きとした老後を通して過ごせるような、魅力ある支部活動を目指して参りたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力の程宜しくお願い致します。



支部活動について

宇都宮北支部長 山 口 治

宇都宮北支部は、十月に総会を行い会員九十三名で今年度スタートしました。会員交事業が主で、四月にウォーキング、五月に清掃活動をしたところです。

トレッキングは帝京大学近くの「まほろばの道・古墳散策」で瓦塚、雷神等五カ所の古墳を、約三時間かけて新緑の中を散策しましたが、予定時間をオーバー、ちょっと距離が長すぎました。清掃活動は、日光街道・北道路沿いの歩道のゴミ拾いです。毎年同じ場所で活動しており、今回もペットボトルや空き缶等四袋ほど拾集、気持ち良い汗をかきました。



今後の予定は、七月にボウリング、八月に体験学習を計画しています。
 当支部も他支部同様、会員の減少や新役員の人選等にコロナ禍後の環境や意識の変化もあり同窓会活動が難しい局面に来ていると感じています。

宇都宮上町支部活動について

宇都宮上町支部長 中 本 英 邦

四十三期生十六名の新会員を迎え、八十二名で活動を行っています。代表役員の積極的な協力を頂き今年度も多彩な活動を計画実行中です。

新たな企画として初級者を対象としたスマフォ教室(四回計画)を実施中です。宮デジサポーターの協力を頂きながら、毎回盛況に勉強中です。
 今年度の実施済及び計画イベントについて記載致します。

- ①十月 十二日 令和六年度総会
 於：明保野コミセン
- ②十一月十二日 ちぎり絵 参加者：八名
- ③十一月十八日 第一回スマフォ教室
 参加者：十八名
- ④一月二十九日 役員会新年会・新人歓迎会
 そば楽味会 参加者：二十七名
- ⑤二月二十八日



- ⑥三月 十三日 第二回スマフォ教室
 参加者：二十四名
- ⑦三月二十六日 ウォーキング
 (白沢宿七福神・澤姫酒造)
 参加者：十九名

- ⑧四月二十三日 (予定) パークゴルフ
 - ⑨五月三十一日 (予定) ニュースポーツ
 - ⑩六月 上旬 (予定) そば楽味会
 - ⑪六月 上旬 (予定) 第三回スマフォ教室
 - ⑫七月 下旬 (予定) 納涼会
 - ⑬九月 中旬 (予定) 第四回スマフォ教室
 - ⑭九月 会報つわまち第十九号発行
- 添付写真は、白沢宿七福神巡りウォーキング時のものです。お天気に恵まれ桜の開花も楽しみました。

宇都宮下町支部の活動紹介

宇都宮下町支部長 岡 本 正 行

支部活動の目的は、会員相互の親睦と交流を深め、会員の健康増進を図ると共に、地域の社会福祉向上に寄与することです。

以下、今年度の実施、今後予定の活動を紹介します。基本方針は、今できることを楽しくです。

一、下町農園は約百坪の農地を借り三月から十一月の間、月一回の農作業を行い野菜を育て収穫します。収穫する野菜は、玉ねぎ・じゃがいも・さつまいも・さといも・大根・春菊を収穫しています。野菜収穫までの新たな発見や感動することが出来る貴重な場所です。また、収穫した野菜を使い、十一月に芋煮会に併せて新会員の歓迎会を実施しました。

二、三月にグラウンドゴルフと花見の会を、十一月にグラウンドゴルフと紅葉を楽しむ会を実施、どちらもグ

ラウンドゴルフ終了後、豊郷台中央公園にて昼食を取りながら会員のコミュニケーションを図りました。

また、五月からは毎月グラウンドゴルフの練習を行う予定です。

三、豊郷まほろばの道歩け歩け大会のウォーキングは、十月に豊郷台中央公園を起点に豊郷の名勝約5kmの道のりを散策し、参加者とのコミュニケーションしながら楽しい時間を過ごしました。

四、合同演芸会は、参加団体が研鑽を重ねてきた演芸を相互に披露し合い、楽しむ企画です。ボランティア再開に備えます。六月予定。

五、下町ラケットは、宇都宮市の青少年活動センター(トライ東で月一回)二時間ほど卓球の練習に汗を流します。今後は、活動を行うにあたり引き続き健康に留意しながら活動を実施して行きます。



河内支部の活動状況

河内支部長 中里 甫

河内支部は五月現在会員数百二十八名の大所帯です。活動は総務、文化・スポーツ、奉仕の三つの委員会からなり、会議の開催やスポーツ大会、ボランティア活動を行っています。

まず、文化・スポーツ委員会は、パークゴルフ、ボウリング、ニュースポーツの三つの地区独自の大会を開催しています。それぞれ二十から三十人前後の参加者があり、会員同士ワイワイガヤガヤと楽しくやっています。

奉仕委員会は、地区内の高齢者介護施設での車椅子清掃や窓拭き清掃、果樹の収穫手伝いなどのボランティア



ティア活動を、年間七から八回行っており、毎回五から十人前後の会員が参加しています。

また、施設への訪問演芸会も年間七回程実施しています。演芸会は、支部内にあるアフリカダンス、フラダンス、日本舞踊、ウクレレ、ハーモニカ、みんなで歌おう、の六つのクラブの会員が、一施設に二から三クラブが訪問して、踊りや楽器、歌など日頃の練習の成果を披露し、訪問先のお年寄りや関係者から大変喜ばれています。支部の活動内容は以上のとおりですが、年ごとに会員数や各イベント、ボランティア活動への参加者が減る傾向にあります。

今後、組織活動の活性化を図ること、役員の成り手不足を解消することが、会を存続させていくうえで大きな課題です。

鹿沼支部の活動について

鹿沼支部長 鈴木 崇夫

昨年十月に令和六年度総会を経てシルバー大学校中央校同窓会鹿沼支部の活動主体が、四十一期生から四十二期生に引き継がれました。此処数年コロナ感染症の流行により支部活動が制約され、鹿沼市内にある施設への慰問活動等ができず、施設周囲の環境整備(草刈り)活動を行うこと・地域で開催されるイベント(かめまつりにこにこフェスタ・ふれあいフェスタinかぬま)にボランティア登録団体として協力してきました。

シルバー大学校の在校生・卒業生は社会福祉法人とちぎ健康福祉協合理事長から「生きがい推進員」を委嘱されます。居住地などで生きがい推進員の活動を支援する組織としての役割が支部にはあります。生きがい推進員として支部を支えるために会員として年会費を納め、活動に積極的に関与する使命があるのではないかと思います。



いますが、現実はそのようではないようです。
 鹿沼支部では、令和七年四月二十日、第二十一回ふれあいフェスタinかめまで登録ボランティア団体としてブースを設置し、来訪者の老若男女・障害の有無にかかわらず共に触れ合う機会として輪投げを行いました。この活動の結果、支部内会員相互のボランティア活動への意欲を高められたのではないかと思います。今後は、会員同士が接する機会を増やし、鹿沼市、鹿沼市社会福祉協議会、他団体との連携を図り、少子高齢対策、文化活動、保健福祉活動などに取り組みたいと考えています。

地道にコツコツと

日光支部長 山本俊樹

支部長の任期を終え、やれやれと思っている所で本誌の原稿依頼が来ました。昨年大幅な退会者が発生した事で、この総括を含めた原稿の依頼かなと思案しながらの投稿です。

当支部は二〇一六年に旧日光、今市各支部が合併して以来八十名から九十名の間で推移して来て、二〇二三年でも七十九名とコロナ禍の影響は限定的と捉えています。昨年は二十二名もの退会者を出してしまいました。



この原因は単純なものでは無いと考えますが
 一、コロナ禍の影響は限定的と考えていたが、その反動によるもの。

二、郵便料金値上げに抗し、導入した携帯アプリのライン導入への拒否感によるもの。

(非フィン者への救済ルートは設けたが)

三、影響力のある会員の諸事情による退部の影響によるもの。

等が挙げられます。退部に至るには前項以外に表に出て来ない様々な要因がありそうですが、人と人の繋がりで支部活動が成立している事を改めて痛感した次第です。

以上ネガティブな側面を紹介しましたが、今後持続的な活動を目指す上で光明も見えております。当支部はもともと女性のパワーで支えられていて、新体制になって、アクティブな部門で複数の女性部長が誕生しています。明るく、優しく、話題も豊富でまた行事も計画的に実行され始めました。定期的開催される行事が歌声広場、そば打ちにグランドゴルフ、杉並木公園清掃が加わりました。また春秋開催にウォーキング、学校ボランティア、年中行事として研修旅行、料理講座、健康講座等がります。地道にコツコツと計画的な活動を目指して行けば会員数も戻って来るものと思います。

真岡支部だより

真岡支部長 橋本達司

真岡支部は、昨年の十月に芳賀町支部と統合し、真岡市、芳賀町、市貝町に在任の方で構成されています。現在の会員は、十八期から四十三期まで合せて一三三名です。

今期は、四十二期と四十三期全員が役員となり、「一人一役+α」をスローガンに、各部会が担当行事を計画



立案推進しています。
 昨年の十月から今年の五月までの主なボランティア活動。行事は、以下の通りです。第一回ふれあい&コラボーレに参加し缶積み、輪投げゲーム、子供サークルでマジック披露、久下田小学校で昔遊び、そば打ち体験、社会福祉協議会へのタオル寄贈、第四回演芸会、井頭公園散策&ゴミ拾いなどです。
 ボランティア活動や行事を行なうことに、役員、会員

との絆が少しずつ深まってきたかなと感じました。特に演芸会では、多くの会員の皆様が出演、来場されました。先輩方が積み重ねてきた行事があるからこそ、毎年、絆を深める機会を得ることができるんだと思います。先輩に感謝です。これからは、我々が後輩へ繋げて行く役目です。みんなで力を合せて、楽しい支部活動にしたいと思います。

上三川支部の活動状況

上三川支部長 渡辺 稔

上三川支部の会員は中央校と南校の同窓生併せて三十八人です。ここ数年は四十人前後で推移しています。支部活動の目的は、会員相互の親睦と交流を深めながら、地域の福祉活動に貢献することを考えています。

一昨年前までのコロナ騒動で、私たちの周りにおける色々な施設で援助活動の申し入れが断られ、ボランティア活動が実施できませんでした。このような中でも町施設周辺の清掃や、各地区のミニサロン等でのマジックショー・ウクレレ演奏を披露し大変喜ばれました。

会員間の親睦活動としては、お花見会、パークゴルフ、蕎麦振る舞い会を実施しました。特に蕎麦振る舞い会は県内女性初のそば打ち六段位(蕎麦士)の認定を受けられた本支部会員齋藤スミさんの蕎麦を頂き、会員一同舌鼓を打ったところです。

また支部活動では、班長以上の九名で支部役員会(会議は一時間以内)を隔月開催し、連絡事項や企画事項の共有、更に支部会員へグループライン等の連絡網により会員相互のスピーディーな意思疎通を図っています。

最後に今後も現支部会員数を維持しながら、少しでも会員増加を図り有意義な支部活動が出来るよう取り組んできます。



蕎麦振る舞いの会

新規に「益子に関する教養講座」開催

益子支部長 菅 又 力

本年度は、総会に併せて新規に「益子に関する教養講座(毎年継続予定)」を陶芸美術館長の講演・解説で実施し、企画展「動と静、濱田晋作・濱田庄司」展を鑑賞。巨匠の情熱と重厚な作品に感動を新たにしました。

また、シルバー大学入学者が停滞していることから、生涯学習推進事例として「シルバー大学校で学びませんか」と題した模造紙二枚大の展示物(大学の特色やクラ



ブ活動、同窓会活動などを多数の写真入りで説明)を町民の集いに展示してPRに努めました。

次に、第十一回目を迎えた「はが路マラソン」のボランティア活動は、手作りのプラカードを作成して熱烈応援を実施しましたが、福祉まつり・ましこふれあいフェスタの「むかしあそびコーナー」は、諸般の事情で実施できませんでした。

メインの恒例事業である町の無料バスを利用した視察研修は、三月三十一日に十九名の参加者を得て近代化産業遺産・国指定重要文化財の「牛久シャトー」視察と世

本年度最初の事業は支部会員の親睦を兼ねて、一月に新年会を開催。四月にはグラウンドゴルフ大会を開催することができました。また、南校同窓会行事として四月に第十八回作品展の実施、六月には第一回演芸会を予定しています。七月には栃木県防災館等への日帰り視察研修、八月には四十四期、四十五期生と交流を図る地域学習活動を予定しています。また、今年度末には「壬生町健康ふくしまつり」におい

壬生支部活動状況

界最大二〇〇坪の青銅製「牛久大仏」の見学を実施し、花冷えの中ではありませんでしたが参加者に好評でした。

最後に、益子町在住の四十五期新入生が一人誕生したというニュースは、総勢二十五名に過ぎない益子支部にとつて久々の明るい話題であり、誠に喜ばしい限りであります。今後モジリ貧状態が続くことにより変わりはなくなんとか少数精鋭で頑張っていきたいと考えています。

壬生支部長 倉井利夫



第14回親睦グラウンド・ゴルフ大会

て会員の文化・芸術作品(絵画・書道・写真等)を出展し、多くの方々に鑑賞していただきたいと企画しています。

一方、ボランティア活動においては、毎月町内三天公園の清掃活動を実施しているほか、獨

協医科大学関係の老人養護施設の館内清掃や車椅子の点検等を実施しています。一部施設においては、施設側の都合により休止している所もありますが、児童施設や老人施設を訪問し、昔あそびや演芸・カラオケ・慰問等を実施。県が管理するわんぱく公園内で在校生(南校)と合同で昔あそびを年一回開催するなど、さまざま活動も実施しており、皆様の協力のもと今後とも活発な支部活動を継続していく所存です。

石橋支部の活動について

石橋支部長 真下義雄

石橋支部は二十六期生から四十三期生まで総勢三十二名の組織です。毎年、新規入会者より退会者が多く、今後モシルバー大学校への在校生の減少などから同様な状況が続くと見込まれています。



石橋支部の活動状況については、十月の定期総会後に下野市主催の姿川クリーン作戦や、南校在校生と石橋・国分寺・南河内の三支部合同の愛リバーボランティア河川敷清掃活動に参加しています。また、毎年たくさんの方の来場者で賑うグリムの森イルミネーション会場の飾り付け準備、撤収作業の協力も三支部合同で参加しています。今後は会員交流グラウンドゴルフ大会・親睦研修旅行や四十四期生地域活動学習会などで、会員相互の交流と地域貢献に向けた活動を推進したいと考えています。



高根沢支部の活動

高根沢支部長 小滝 広志

今年度は四十五名の会員でスタートしました。十月に総会を行い、一月に「新年の集い」を実施、楽器演奏や合唱、民話語り、アフリカンダンスと賑やかで愉快的な時間を堪能しました。最後には、全員で持ち寄った景品の抽選交換会でも、お開きになりました。同時開催となった「タオル寄贈」イベントにも全員が協力し、社会福祉協議会を通して善意銀行に寄贈されました。



紙面を借りて、お礼を申し上げたいと思います。三月には、パークゴルフ大会を白沢パークゴルフ場で実施しました。青空の下、楽しいひと時でした。次回は六月に実施予定です。七月には、親睦バス旅行(めんたいパーク群馬・こんにやくパーク・ガトーフェスタハラダ・上里カンターレ)、鬼怒川小貝川クリーン大作戦に参加予定です。まだまだ、ボランティア活動・イベント等がありますが、今後とも



活発な支部活動を継続していきたいと思えます。

南河内支部の活動状況について

南河内支部長 菊地 常夫

南河内支部の会員は、現在五十三名です。その位置特性から、中央校卒二十四名と南校卒二十九名で構成されているため、両校の特色をバランスよく取り入れながら支部活動を進めています。

当支部では、年間の活動計画を円滑かつ着実に進めるため、月一回の役員会を実施するとともに、三つの部会(総務部会、親睦部会、ボランティア部会)が主体となつて、各種活動を推進しています。特に今年度は、昨年度

の取り組みに一工夫加えるとともに、各部会プラスの事業を企画実施し、会員に魅力を感じてもらえるような支部運営を展開しています。

主な活動としては、「広報かわら版」や「支部だより」などによる会員への情報発信の他、会員相互の親睦と交流を図るため、三月末にはお花見会とグラウンドゴルフ交流会（写真）を実施し、咲き始めた桜の下楽しい一日を満喫しました。今後は、市民講座や日帰りバス旅行なども実施していく予定です。また、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。月二回の近隣公園の清掃



活動を始め、年四回の愛りバー（田川や姿川の河川敷の清掃）やグリンの森イルミネーション（飾付けと片付け）、さらに高齢者サロンなども協力参加しています。

会員の減少傾向に不安はありますが、今できることをしっかりと実施し、次のステージに繋げていくことが重要であると認識しています。

また、石橋支部や国分寺支部との交流・協力関係を維持し、下野市域における社会貢献活動を通して、シルバー大の認知度向上にも努めていきたいと考えています。

期別活動

三十五期会活動、十周年

会長 佐々木 祐 治



私どもシルバー大学校中央校同窓会第三十五期会は設立から「仲間」に会いに行こう」のスローガンの下、永続的な組織を目指し今年度十周年の刻を刻みました。

設立当初「中央校期別会として一番長く活動を続けて行こう」を合言葉に全員一丸協力して期別会活動をはじめました。

顧みれば、この十年間の活動内容はニュースポーツ、ボウリング、親睦旅行、そして宇都宮市内名所・旧跡を訪ねる見学会などで、これらの活動を通して出会いと縁がもたらした会員それぞれに「愛着心を持って会員を続けてきて良かった」と思ってもらえるよう活動毎に改善を加えながら、また、会員全員支え合いながら行ってまいりました。

しかし、会の存続が危うい困難な時期も多々ありまし

た。

それは、思いもよらぬ極端な会員の減少、新型コロナウイルス感染症による活動自粛、他期別会の短期間活動での解散による当会員の動揺等々です。

三十五期会は昨年から十年目に入りました。これからも全会員の結束力を強め、意見・提案をぶつけ合い良い結果を見出せるよう力強く前へ進んで行きたいと思っております。

そこで、私どもは十周年を記念して一念発起し、これまでの皆様からのご支援に対し、感謝の思いを込めて「おかげさまで十周年記念イベント」を現在企画中であり、イベント開催に向けて執行部全員あちこち奔走しております。

イベント開催の折にはシルバー大学校中央校在校生の皆さん、同窓生の皆さん、大学校関係者の皆さん、そしてその家族の皆さん、ご指導、お力添えを頂きますようお願い致します。

四十二期会同窓会の活動状況

四十二期会同窓会会計担当 八ツ橋 正文



私たち四十二期会同窓会は設立時一八五名でスタートしました。

同窓会の各事業の推進に当たっては、四十二期会間での親睦を深め、価値観の共有を構築するため、一人ひとりが役割を担えるよう次の事業を計画・実施しました。

- ① 会誌の発行（かわら版・水・木曜日コース別発行）
- ② 親睦旅行（日帰り・香取神宮、犬吠埼灯台、銚子電鉄の旅、四十六名参加）
- ③ 懇親会（東武百貨店 五十二名参加）



四十三期会会長 塩野谷 純 一

四十三期の同窓会は、会員の親睦・交流と心豊かな地域社会づくりを目的として昨年十一月に会員数百七十八名で発足しました。私達四十三期生は、卒業して半

④演 芸 会（二〇名参加、十八組・来場者八十八名）
⑤ボランティア活動
（歳末助け合い募金、フードバンク活動等）などです。

また、相互の交流を深めるため、「四十二期会のお知らせ」をライン情報で会員全員へ共有して、期別クラブの活動又は、地域活動（ボランティア）への参画など、四十二期会間の親睦・価値観がより一層深まるよう取り組みをしました。

本年度計画した各事業等につきましては、会員皆様のご協力、ご理解をいただきましてすべて無事完遂することができましたことに感謝しております。

この成果は、栃木県シルバー大学校中央校を卒業した後も、四十二期会間相互の交流を通じ、情報・価値観を共有し、親睦を深めることを継続して行っていることが大きな要因だったのではないかと思います。

そこで、次年度も四十二期会同窓会会員間の更なる親睦・交流を深めることを目標に会誌発行、親睦旅行、懇親会、ボランティア活動などを計画・実施に向けた取り組みを考えております。

今後とも、会員の皆様のご協力、ご理解、ご指導をいただき、四十二期会同窓会の事業活動などにつなげてゆきたいと思っております。

四十三期会活動状況について

年以上が過ぎ、多くの方が新しい自分の目標を定め進めていると思います。その様な中でも私達が在学時に積み上げた皆さんと繋がりを大切に継続したいと思います。その機会として卒業後の皆様の親睦と交流の場を計画しています。

今年度の同窓会の活動計画としては、親睦の旅行会や懇親会の開催を計画しています。また、皆さんの近況のお知らせを目的に会誌の発行も予定しています。更に地域社会への奉仕活動として中央同窓会の各イベント時に募金活動やフードバンクの実施に協力しています。期別の同窓会は中央同窓会に属して各中央同窓会のイベント開催の報告や参加募集を行っています。特に中央同窓会主催の合同演芸会では、OB会等で活動中のグループが多く参加エントリーされています。大変嬉しく思います。

期別同窓会は、シルバー大学校を卒業された後もフレイルにならず、積極的に外に出て多くの方と交流が出来る場を設けて行きます。

また、その活動が地域社会の貢献に繋がる事を進めて参りますので、多くの方の参加と協力をお願い致します。

FOOD CLUB 活動紹介

FOOD CLUB スクラブOBの活動紹介

FOOD CLUB スクラブOBの多くは卒業後も「チリリ」(須藤英夫会長)に入会して毎月四回「コミュニケーションセンター」等で楽しく踊り続けています。この「チリリ」は三十一期生が立ち上げたもので、ダンス名をそのままクラブ名にしたそうです。講師の小林敬子先生と新倉寛充

FOOD CLUB 活動紹介

FOOD CLUB スクラブOBの活動紹介

四十一期 新井 一 夫

先生もシルバー大学校卒業生であり会員四十三名は強い絆で結ばれています。FOOD CLUB スクラブOBの魅力の一つは曲が多く毎回新鮮な気持ちで踊れることです。「このダンス、前に踊ったことあったっけ」「先週も踊ったわよ」「あらずだったあ」「毎回来てるけど忘れちゃったなあ」という声飛び交っています。先生方は嫌な顔を見せずに「じゃあ、もう一回最初からね」と優しく指導してくれます。ときには



先生もシルバー大学校卒業生であり会員四十三名は強い絆で結ばれています。

FOOD CLUB スクラブOBの魅力の一つは曲が多く毎回新鮮な気持ちで踊れることです。

「このダンス、前に踊ったことあったっけ」

「先週も踊ったわよ」

「あらずだったあ」

「毎回来てるけど忘れちゃったなあ」

という声飛び交っています。

先生方は嫌な顔を見せずに

「じゃあ、もう一回最初からね」

と優しく指導してくれます。ときには

「分かったあ」
「どうして分かんないのお」

「この前踊ったでしょう」

と厳しい言葉が返ってくることもありま

す。そんな時は誰もが笑ってごまかしています。

音楽に合わせて軽やかにステップを踏み美しく踊るためには踊り方を覚えなければなりませんし、体力も必要となります。健康維持に最適だと思っ

ています。県レベル、全国レベルのダンスパーティーに参加することもありません。艶やかな衣装に身を包み、初めて会った人でも、上手い下手に関係なく、笑顔で楽しそうに踊る姿を見るたびにフォーワダンスの魅力を感じています。

アフリカダンスクラブ「シルバ族」

シルバ族会長 鈴木英雄

当クラブは、全員シルバー大学校OBで未経験者も



多く女性が七割、男性が三割の比率で構成され、現在一六名にのぼる大所帯の特に女性に人気のあるクラブである。

活動状況は、介護施設や放課後児童教室訪問及び各種団体主催のフェスタや祭り等のイベントに積極的に参加し、昨年度は週一回程度行っており好評を呼んでいる。近年の大きな活動を紹介しますと令和四年に栃木県で開催された「第二十二回全国障害者スポーツ大会」開会式セレモニーに一七名で参加し、式に招待されていたU字工事を引き込んで踊るなど、会場を盛り上げ主催者からセレモニーの成功に感謝の言葉をいただいた。

自主開催イベントとしては、本場アフリカのギニアオールスターズとの合同公演を令和六年に行い、県内各地から来場された多くの方々と一緒に本場アフリカの音楽とダンスで盛り上がり、大成功を収めた。

また、三校合同によるアフリカダンスフェスタを令和五年から福田富一校長の来場を得て開催しており、本年も九月十四日に第四回を計画していますので是非「ろまんちっく村」にお越し下さい。お待ちしております。

OB太極拳クラブ

幹事 柳田宣夫

毎週月曜日の午後、宇都宮市中心の体育館に一〇〇人の現役、OB会員が集まる。なぜこんなに人が多く集まるのだろうか。

健康にはとても良い運動とはなんとなく思うが、それだけだろうか。それと、何が良い運動になっているのだろうか。

指導者の訓示、先輩、後輩との交流、私自身の体験をまとめました。わざとゆっくり動作をする。動いている時間が長い為、その間は筋肉が動いている。ゆっくりで



はあるが、筋肉が伸びたり、縮んだりしてゐる時間も長い。激しい動作の太極拳もありますが、私達はゆっくりとした太極拳を習っています。それほど呼吸の乱れもなく、体の負担は少ないように感じられます。これが長く続けられる理由のひとつだと思います。

休憩時間になると、たちまち、あっちこちでおしゃべりが始まる。皆さん元気だ。

休憩時間を終わらせるには、笛を思いっきり吹いて、おしゃべりを止めさせる係員がいる。太極拳は、長生きできる武道なのかもしれない。

四十二期ウォーキングクラブOB会

会長 長田英紀

卒業から一年半が経過した現在も七十五名が在籍し、二ヶ月に一度のペースでウォーキング例会を楽しんでいます。

会員の平均年齢は七十歳を超えていますが皆さんとても元気で、四月の「奥多摩むかし道」では十キロを超えるコースをものともせず走破しました(添付写真の奥多摩湖)。

例会時、バス移動中は班毎に乗車、おやつを食べながら部活の話に始まり、学校時代や直近の話題等で談笑し懇親を深めています。

ウォーキング中も会話を楽しみながら歩き、ときには昼食時に軽く一杯飲み、食事、談話を楽しむこともあります。行先は季節に合わせて歴史や自然を感じられるコースを企画しています。本年度の活動紹介ですが、令和六年十月に会津若松と塔のへつり、十二月に皇居一周と築地場外市場、令和七年二月に湘南海岸と江の島、四月に奥多摩むかし道をウォーキングしてきました。この先、六月に北鎌倉のお寺と紫陽花の散策、八月に群馬県一ノ倉沢ウォーキングを予定しています。

OB会は会員相互の親睦を深め、心身の健康維持を図る。また、自然、歴史、文化を学び、地域へ寄与することを目的として活動しています。今後も会員皆様の協力を頂きながら、参加し易い楽しいコースで思い出を残せる例会を企画し、より長く継続できる様に努めたいと思っています。



歴史研究OB会の活動状況

歴研OB会四十二期代表 小林 和夫

クラブの活動内容は、野沢町パーティを会場として毎月一回、本校のOBであり当クラブを立ち上げた渡辺先生による歴史講座と、年に三回ほどの歴史にゆかりの深



い場所を旅行形式で訪ねる探訪との二本立てとしていま

す。
講座については、今年度は栃木県の歴史上の重要人物をテーマとしており、藤原秀郷や宇都宮頼綱などについて当時の時代背景や取り巻く人物を取り上げています。講師の渡辺先生の歴史についての見識の深さには驚かされますが、話はユーモアにあふれ毎回楽しく勉強をしています。

歴史探訪については、今年度は三月に「歴史的に由緒ある秩父路巡り」として、鉢形城跡など秩父地方を訪ねました。当日は思いもかけず明け方から雪で、長い探訪の中で雪は初めてということで大変驚きましたが、宝登山神社の参道の松と本堂が深い雪に包まれた風景は実に荘厳なものでした。次回は六月に「真田の里、沼田を訪ねる」を予定しています。名胡桃城址や正覚寺など、観光旅行とは一味違う探訪は、今回はまたどんな発見と驚きが待っているのか楽しみです。

歴史研究OB会は、シルバー大学校のOBも含めて、いつからでも誰でも加入は任意のクラブです。本会に興味のある方、一緒に活動してみませんか。

テニスクラブOB会の活動状況

令和六年度会長四十二期生 酒井 利治

シルバー大学校卒業生のクラブで、現在の会員数は七十六名で最高年齢は八十六歳の若い男女のクラブです。練習は、週二回で月八回もやっています、屋根運動公園、宮原運動公園がメインですが、コートの予約はインターネット抽選なので予約出来ない時は、井頭公園としています。練習は五十名前後にもなるのでコートは五、六面必要となり、予約するのに裏技を使って工夫しています。

テニスは、健康寿命を延ばすには良いスポーツで、当クラブでは遥かに平均を上回っています。爽やかなテニス日和に気持ちの良い汗を流すのは、健康的で幸せを感じています。

クラブ内での楽しみは、春季・秋季テニス大会を催している、五月十五日に春季テニス大会を行い参加者は何と五十七名となり、団体対抗戦の形で行いましたので、チーム内でのコミュニケーションやチームワークでワイワイガヤガヤで楽しい一日を過ごすことができました。添付した集合写真、その時のもので美男美女?の証です(笑)。

シルバー大学校卒業後もテニスができることの喜びと仲間との交流の楽しさを味わうことができ、いつまでも生き生きと過ごせています。テニスは、外での活動になるので一番の関心ごととは天気ですね。毎日予報と睨めっこしていますが、予報は正確で助かります。これからも健康寿命を更新していきます。



シルバー大学テニスOB会 2025 春季テニス大会

43 enjoyフォークソング

四十三期 大塚 康 宏

フォークソングクラブの四十三期OB会は、43 enjoyフォークソングと命名し創設しました。宇都宮市北生涯学習センターを活動の場として第二火曜(第三土曜、第四火曜)の午前中に活動しております。三十名の会員はギター四名、ウクレレ三名、ハモニカ五名、歌唱十八名体制で元気にエンジョイしております。季節にマッチした選曲を皆で演奏し大合唱しています。半年が経過し春の到来を祝う音楽会を企画。春一番を皮切りに全身運動



のヤングマン、おしゃれな帽子を揃えて恋の季節。またカントリーロードとマイウェイなどジャンルも広げて歌唱しました。見学会も同時開催、八名の方が参加し和やかな音楽会となりました。ボランティア活動として三月までに五回ほど介護施設の皆さんと懐かしい唱歌、昭和歌謡などを歌いました。帽子を揃えたりコーサージュや、てんと虫の被り物を着けたり、部員の手作りで楽しい雰囲気づくり、帰り際には、「今度また来てね」との声掛けもあり大変嬉しく受け止めています。

フォークソングクラブのボランティア活動は継続していきます。

元気が出る名曲「若く明るい歌声に雪崩は消える花も咲く。青い山脈、雪割桜空の果て、今日もわれらの夢を呼ぶ」シルバー大学校中央校OBの皆さん、一緒に懐かしいフォークソングを歌いませんか。お待ちしております。

合同演芸会開催について

実行委員長 手塚 久 男

今年の合同演芸会は、三十八期から四十四期迄の参加グループが集まり九月二十九日シルバー大学校中央校講堂で開催予定です。本年度は昨年四十二期会主催の合同演芸会の経験を活かし予定通り進めてまいりました。今年には参加希望を各支部にもご協力をいただき、お蔭様で参加希望が順調に集まり二十一のサークルの参加意向をいただきました。有難うございます。参考までに民謡、フラダンス、マジック、カラオケ、和服、ハーモニカ、オカリナ、アフリカダンス、フォークソング、ウクレレ、よさこい、ギター、他が参加されます。

又、昨年の合同演芸会の日には募金活動をしましたが多額の募金等をいただきました。有難うございました。九月の演芸会は楽しい演芸会を期待します。



同窓会役員名簿

令和6年度 中央校同窓会役員

役職	期別	氏名
会長	42	吉田 弘
副会長	42	手塚 久男
//	42	岡室 富男
//	43	塩野谷 純一
//	43	小西 真
//	43	中島 利夫
書記	42	手塚 久男
//	42	岡室 富男
//	43	中島 利夫
//	43	阿部 幹雄
会計	42	岡崎 正廣
//	42	八ツ橋 正文
//	43	福田 利夫
//	43	佐藤 光信
監事	42	柳田 宣夫
//	42	菅原 進
//	43	本多 真
//	43	坂本 正

令和6年度 支部長

支部名	期別	氏名
宇都宮東第一	38	鈴木 清司
宇都宮東第二	38	野澤 敏男
宇都宮西第一	40	座間 宏一
宇都宮西第二	42	原田 昌廣
宇都宮南第一	40	大出 好美
宇都宮南第二	38	神永 哲
宇都宮北	41	山口 治
宇都宮上町	35	中本 英邦
宇都宮下町	40	岡本 正行
河内	41	中里 甫
鹿沼	42	鈴木 崇夫
日光	39	鈴木 秀一
真岡	42	橋本 達司
上三川	41	渡辺 稔
益子	36	菅又 力
壬生	40	倉井 利夫
石橋	37	真下 義雄
国分寺	36	高崎 信一
高根沢	39	小滝 広志
南河内	40	菊池 常夫

令和6年度 部会担当役員

役職	期別	氏名
広報部会	42	伊藤 亮
//	43	丸山 実
福祉部会	42	酒井 敏郎
//	43	伊藤 秀雄

令和6年度 期別会会長

期別	氏名
35	佐々木 祐治
42	吉田 弘
43	塩野谷 純一

栃木県シルバー大学校校歌

作詩 室井 トモ
補作 中山 中夫
作曲 松水 康路

♩=98

(1) き

よーらかー な のぞ みをもちー て すー

こーやか な まなびの にわに はらからと

ゆたかな こころーを みにつけて

とくーを みがきて すすみゆく あー

あーわれーらの シルバー大学校

一、清らかな 希望をもちて
健やかな 学びの庭に はらからと
豊かな心を 身につけて
徳をみがきて 進みゆく
あ、我等のシルバー大学校

二、温かき 愛情を持ちて
雄々しくも 学びの窓に はらからと
気高き心を 身につけて
明日を目標して 進みゆく
あ、我等のシルバー大学校

三、新しき 道を求めて
睦まじく 学びの窓に はらからと
福祉の心を 身につけて
地域育くみ 進みゆく
あ、我等のシルバー大学校

編集後記

栃木県シルバー大学校同窓会「会報三十三号」は、多くの方のご協力により、原稿作成・編集・校正を経て、無事に完成させることが出来ました。

本号は、四十二期・四十三期の広報部会の会報作成チームによって原稿依頼から編集・校正・発行まで担当させて頂きました。

本誌の表紙と裏表紙(撮影・本多氏)は栃木県シルバー大学校を掲載しました。

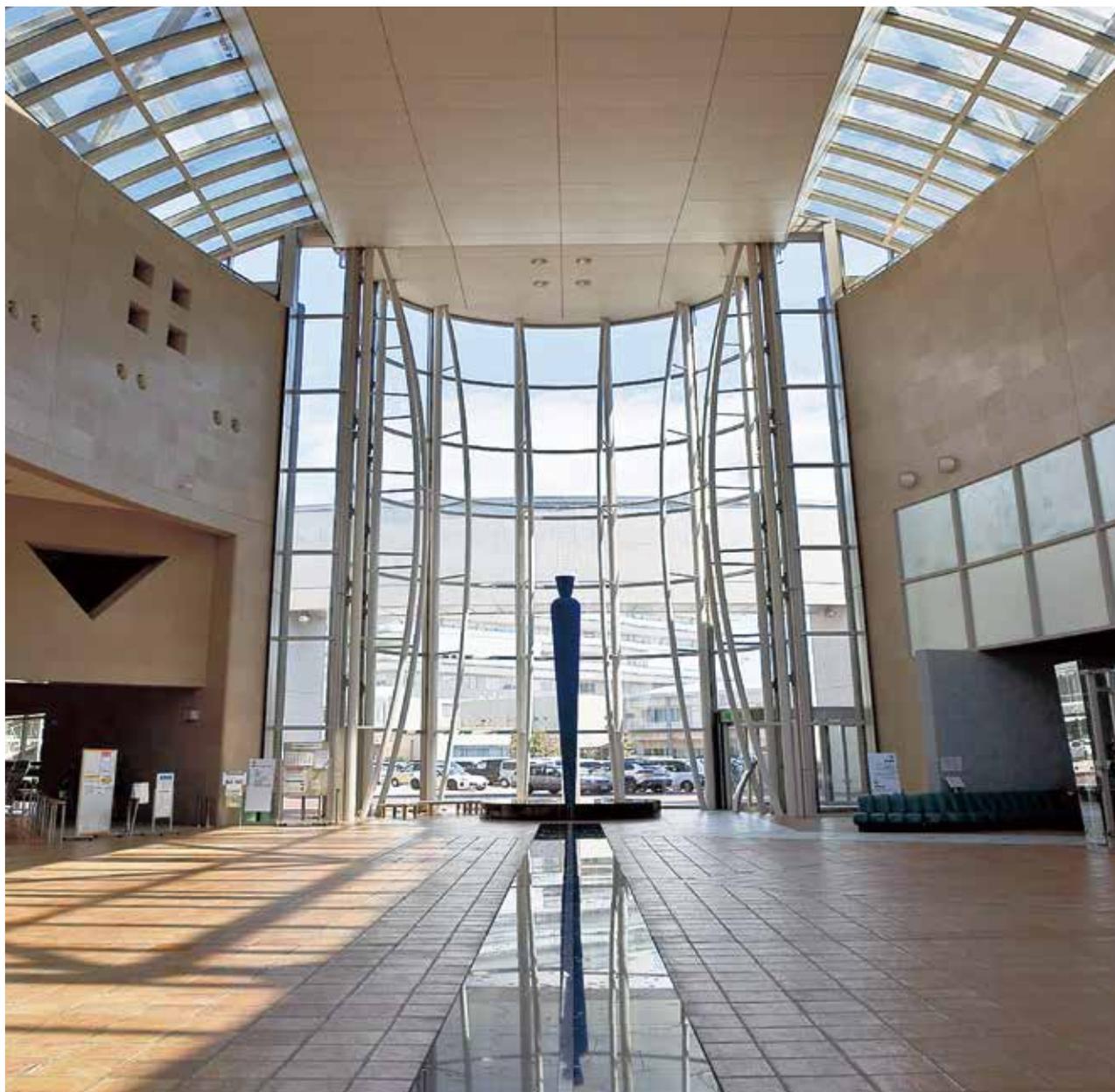
会報の役割は、皆さんが卒業後の支部及びクラブ・中央同窓会の活動状況をお伝えすることです。

今後とも、関係する皆様の広報部会へのご協力をお願いいたします。

この編集後記を通して、取材や原稿作成にご協力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

令和六年度広報部会一同





栃木県シルバー大学校中央校同窓会
会報 第33号

発行日 2025年8月1日
発行者 吉田 弘
編集責任者 同窓会広報部会
印刷 株式会社井上総合印刷
